

令和 6 年度 円通寺跡・深谷やぐら群の調査について

調査担当：生涯学習課 磯口

調査期間：11 月 11 日～12 月 20 日

調査面積：41 m²

調査目的

1 号やぐら前

- ・ 1 号やぐらの造営とやぐら前の儀礼に関わる遺物・遺構の確認

18 号やぐら前

- ・ やぐらの造営と前面の空間利用に関する基礎資料の収集

円通寺跡

- ・ 令和 5 年度調査で確認された礫敷き面の範囲の確認。
- ・ 時代を特定し得る資料の収集

調査結果

1 号やぐら前

- ・ 岩盤直上の土より近代の遺物が出土したことから、近代以前の土は失われていることが判明した。
- ・ 板碑前では岩盤が急速に落ち込んでいくことを確認する一方で、岩盤斜面を垂直に掘り込む加工痕を確認した。

18 号やぐら前

- ・ 地業面（造成面）を確認した。
- ・ 中世かわらけと鎌倉時代後半の瓦の破片を検出した。

円通寺跡

- ・ 礫敷き面は想定を超えて広がっていることを確認した。
- ・ 山裾を切ったラインで溝を構築していることが想定される。
- ・ 礫敷き面を掘り抜くと、造成土と思われる遺物のない層が検出された。
- ・ 北側の調査区では上下二面の地業面を確認した。それぞれ近世と中世の可能性がある。
- ・ 出土遺物（かわらけ・輪花紋火鉢など）から 14 世紀代を中心に利用されたと考えられる。
- ・ 近世の遺物（燈明皿・貧乏徳利）も出土した。具体の時期は今後検証する。